

戦国の世に散った知られざる将



真田＝策謀・戦上手というイメージの第一歩を記した始祖・幸隆(幸綱)。

幸隆の子で、上田城を築き上げ、家康にも恐れられた謀将・昌幸。

昌幸の子で、真田十勇士を従えて徳川家に挑み、抜群の知名度と人気を誇る幸村(信繁)。

真田一族といえば、まず彼らの名が思い浮かぶのではないだろうか。

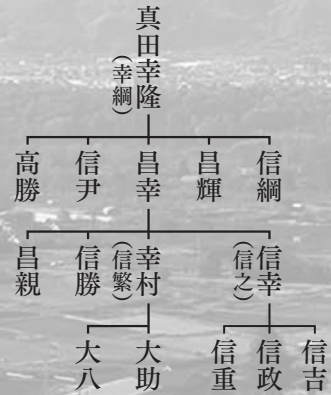
しかし、弟・昌幸に比べると文献があまり残されていないこともあって知名度では劣るものの、

兄である信綱と昌輝の存在を決して忘れてはならない。

信綱・昌輝(資料によって幸隆、昌幸の場合も)は、

武田信玄に仕えた武将のなかでも特に評価の高い精鋭をさす「武田二十四将」に数えられている。

熾烈な戦国の世を駆け抜けた信綱と昌輝とは、どんな武将だったのか。



真田信綱

[さなだ のぶつな]

天文6年(1537)※異説あり
～天正3年(1575)5月21日



真田幸隆の長男。弟は、次男・昌輝、三男・昌幸、四男・信尹。母は幸隆の正室・河原隆正女。通称は源太左衛門。武田信玄に仕えて側近となり、父と各地を転戦。天正2年(1574)、父の死により家督を継いで当主となるも、長篠の戦いで昌輝とともに討死。信綱寺(上田市真田町)は信綱が再興したもので、裏手に信綱の首を埋葬した墓碑がある。未亡人となった正室の高梨政頼女は、昌幸から領地を与えられた。正室の産んだ女子は真田信之の側室となり、信吉を産んだとされる。ほかに男子として信興、信光(一説には孫)があったという。

真田昌輝

[さなだ まさてる]

天文12年(1543)※異説あり
～天正3年(1575)5月21日



幸隆の次男。同母兄に信綱、同母弟に昌幸、信尹がいる。通称は兵部。父や兄を助けながら武田家に仕え、活躍した。小県郡、吾妻郡の領地経営に参画したとみられている。永禄12年(1569)に信玄が相模小田原城(神奈川県小田原市)を開城した際には後北条氏方を攻めて功績があった。長篠の戦いで兄とともに討死。同地(愛知県新城市長篠)には信綱・昌輝兄弟の墓碑が残されている。昌輝の長男・信正(孝明)は、松平忠輝、松平忠昌、本多忠国に仕えており、その関係から福井市の西墓地に昌輝の供養墓が残る。

長篠の戦いで壮烈な討死

幸隆の病没後、真田家の家督を継いだのは長男である信綱だった。主である武田信玄の存命中からその実力を認められていた信綱は、父の死を悲しむ間もなく、信玄の後継となった勝頼の命で出陣する。長篠城の争奪戦に端を発し、1万5000の武田軍と3万8000の織田信長・徳川家康連合軍が激突した長篠の戦いである。天下無敵と恐れられた武田の騎馬軍団だったが、織田軍の組織的な三段構えの一斉連射の鉄砲隊に阻まれて戦死者が続出、思いもよらない惨敗を喫した。この戦死者の中に信綱・昌輝兄弟もいた。信綱は当主となってわずか1年、悔やんでもあまりある死であつたに違いない。信綱亡き後の真田家は弟の昌幸が継承し、信繁(後の幸村)へと受け継がれていった。

桜の下に眠る信綱の魂

三尺三寸(約1m)の青江の太刀を操って、父や弟らと武田信玄の快進撃を支えたものの、長篠の戦いで武田勝頼をかばい銃弾に倒れた信綱。信綱の首は家臣の白川勘解由(かげゆ)兄弟によって信綱愛用の陣羽織に包まれ、鎧とともに信綱開基の信綱寺へ運ばれ、桜の下に手厚く葬られたという。享保2年(1717)、寺の移築にともなう墓所は裏山に移されたが、最初に埋葬された場所から出土した血染めの陣羽織と鎧は信綱寺の寺宝として大切に保管されている。愛刀である青江の太刀(国重要文化財)は真田宝物館が所蔵。長い時を経て、信綱寺のエドヒガンは大きな古木となった。今なお「墓前の桜」と称されて、美しい花を咲かせ、人々に愛されている。

ご案内 温泉、体験、特産品など

歴史館

真田氏歴史館

時代を駆け抜けた真田氏ゆかりの品々がある資料館。真田三代の歴史が分かる人気のスポット。

長野県上田市真田町本原2984-1
TEL:0268-72-4344
AM9:00～PM4:00
(企画展開催期間中は～PM5:00)
火曜日、年末年始定休
(火曜日祝日の場合翌日定休)
大人:200円 小中学生:100円

観光案内所・体験・お土産

ゆきむら夢工房

真田エリアの観光案内所。そば打ちなど食の加工体験などでも、電動アシスト自転車の無料貸出もしている。

長野県上田市真田町長6090-1
TEL:0268-72-2204
AM8:30～PM5:15
年末年始定休

野菜直売所

新鮮市真田

地元真田地域の野菜や山菜、きのこ、果物のほか地元ならではの加工品も販売している直売所。

長野県上田市真田町長6109-1
TEL:0268-72-2030
5月～11月 AM8:00～PM4:00
12月～4月 AM9:00～PM2:00
年末年始定休

温泉

真田温泉(ふれあいさなだ館)

天然温泉(アルカリ性単純温泉)、お食事、温泉プールなども完備した旅の疲れを癒す日帰り温泉施設です。

長野県上田市真田町長7369-1
TEL:0268-72-2500
AM10:00～PM9:30(受付PM9:00まで)
火曜日定休(祝日の場合は翌日)
大人:500円 小中学生:250円

地藏温泉(十福の湯)

県下最大級の庭園露天で人気の日帰り温泉、またお食事もメニューが充実している。本格石窯焼きビザも人気。

長野県上田市真田町傍陽9097-70
TEL:0268-75-3855
AM10:00～PM10:00(受付PM9:30まで)
(12月1日～3月中旬は閉館が1時間遅くなります)
不定休
平日・大人:600円(土日祝:650円) 小学生:300円

千古温泉

神川溪谷にある日帰り温泉。上流には真田十勇士の霧隠才蔵が忍者修行をしたといわれる千古の滝がある。

長野県上田市真田町長6395
TEL:0268-72-2253
AM10:00～PM8:00
毎月20日定休(土・日曜日の場合は営業)
大人:500円 小中学生:250円

角間温泉(岩屋館)

真田の里の隠し湯として名高い角間温泉にある大自然に囲まれた静かな一軒宿。(茶褐色の炭酸泉)

長野県上田市真田町長2868
TEL:0268-72-2323

お食事処

札幌ラーメンどさん娘真田店

TEL:0268-72-2225

AM11:00～PM2:00 水曜日定休

車

TEL:090-5513-2891

昼/AM11:30～PM1:30 夜/要予約

お食事処真田亭

(ふれあい真田館内 食事のみできます)

TEL:0268-72-2500

AM11:00～PM8:00 休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)

http://www.sanadanosato.or.jp/onsen_shokudou.html

カフェ&ギャラリー-SAAN(さあん)

TEL:0268-72-8100

AM11:00～PM5:00 日曜定休日

日替わりランチ/AM11:00～PM2:00

http://www.azarean.jp/Group1/Contents/22_cafegallerysaan.aspx

和風レストランわか

TEL:0268-72-4321

手打ちうどん江戸屋

TEL:0268-75-3525

AM10:00～PM4:00 定休日:木曜日

水曜日夜のみ営業/PM5:00～PM8:00

掲載内容は平成25年10月31日付の情報に基づいております。

渋沢温泉

薪で沸かし、毎日湯をはりかえている日帰り温泉。

長野県上田市真田町長1317-6

TEL:0268-72-3224

AM10:00～PM8:00

毎週水曜日定休

大人:500円 小学生:250円 乳幼児:無料



①・⑭ゆきむら夢工房

観光案内所です。観光ガイドマップや各種パンフレットが常備され、職員が観光コースの相談にのります。電動アシストサイクルの無料レンタルも実施しております。真田のお土産もそろっているので、最後に寄るととても便利です。信州名物のそば打ちやおやき作りの体験もできます。



②薬師堂

人のあらゆる病気を治すといわれる薬師如来を祀っております。本尊は傍陽の矢坪から流れついた石仏で、正保2年(1645)に建立されました。



③総門(黒門)

全体に黒く見えることから黒門と呼ばれています。この門の扁額(へんがく)は、元総持寺貫主の畔上樸仙師が書かれたものです。この参道の桜並木は花見の名所として地域に親しまれています。



④馬頭観音

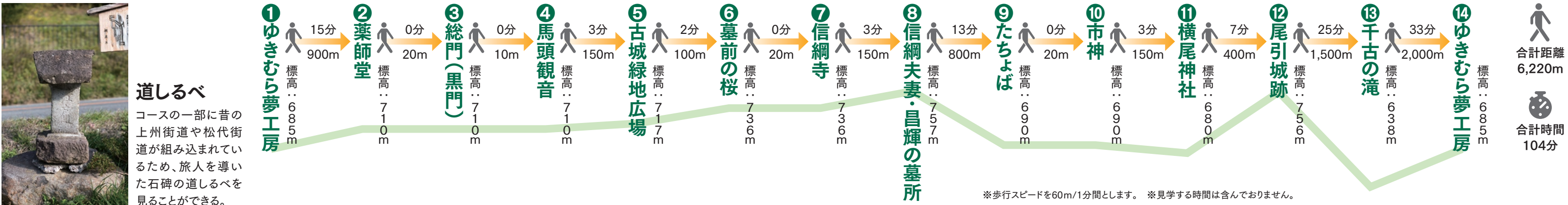
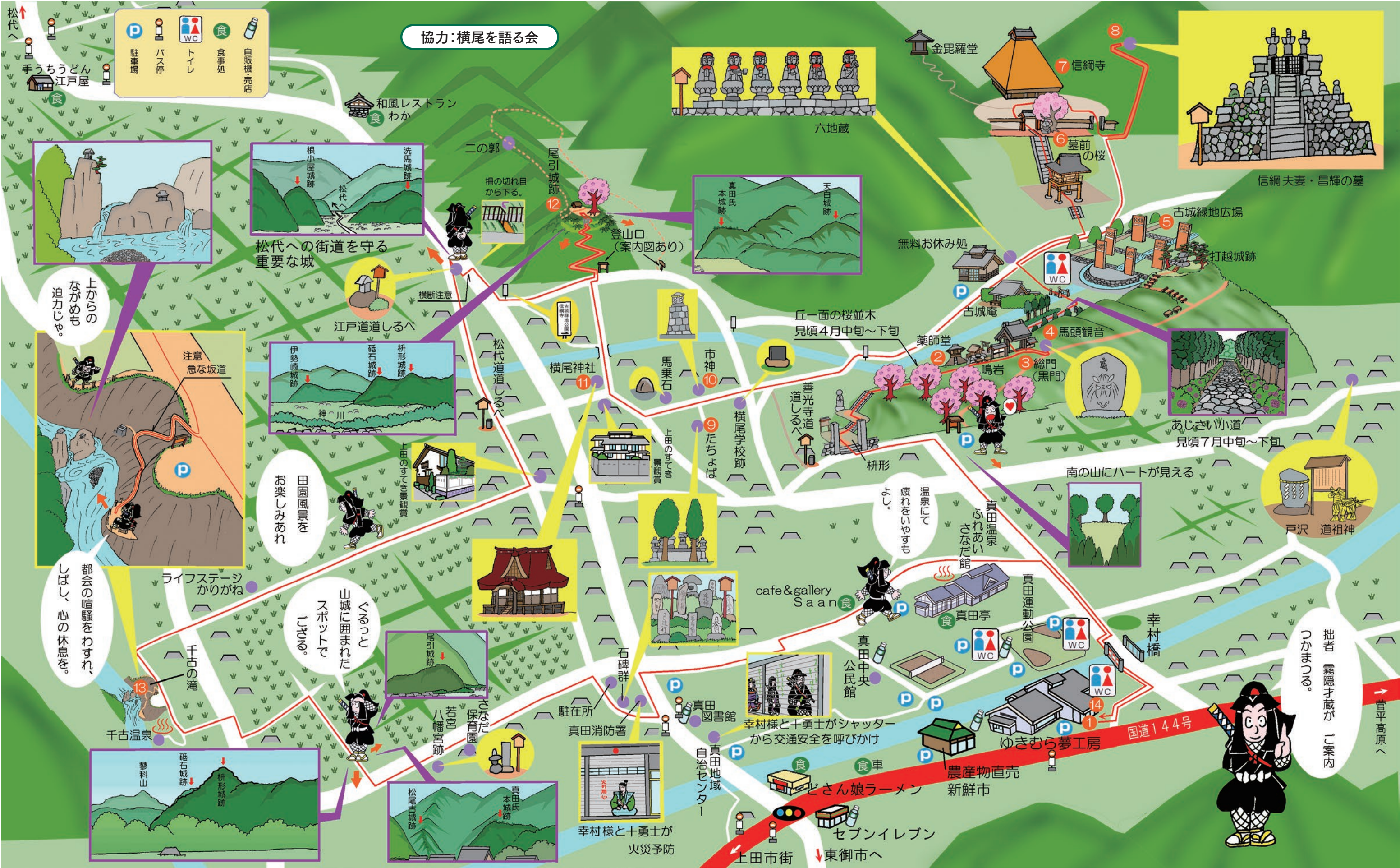
馬の健康や安全を祈願し、一般的には「馬頭観音」「馬頭大士」と文字を刻みますが、これは馬の顔を線彫りしており、非常に美しく珍しい石碑です。文政5年(1822)に建立されました。



道祖神の石碑群



この広場には道祖神3体のほか馬頭観音など石神や石仏が27体も一ヶ所に祀られており、このようなところは近隣にありません。古いものでは延宝7年(1679)の南無阿弥陀仏と書かれた名号塔で、今から約330年前に祀られたことになります。昔の人は石神や石仏を祀ることによって喜怒哀楽を共にし、そこで祈ったり、すがたたりして苦難に耐え、その時代を乗り越えてきたのでしょう。



⑤古城緑地広場

地域住民のいこいの広場です。「歴史の丘」には真田氏と関係の深かった戦国武将の石刻花押があります。また、先端部分は真田丸を現した形になっており、ステージとしても利用できます。また、和風庭園を眺めながら休憩ができる「古城庵」(有料)等々の各種施設があり、誰にでも楽しめる広場となっています。



⑥墓前の桜

戦死した信綱の首級、鎧胴は桜の樹下に手厚く葬られました。「墓前の桜」と称し大きな古木は今でも美しい花を咲かせています。



⑦信綱寺(しんこうじ)

室町期、尾引城主横尾氏の菩提寺として梅ノ木に大柏寺が開創されました。上田原の合戦で横尾信光が討死。以後廃寺となり天正3年(1575)打越に移して打越寺としました。文禄3年(1594)、真田昌幸が長篠の合戦で戦死した兄信綱の牌所として信綱寺と改称しました。享保2年(1717)現在地に移りました。



⑧信綱夫妻・昌輝の墓所

天正3年(1575)信綱は長篠の合戦で弟昌輝と共に戦死し、家臣白川兄弟が、主君の首級、鎧胴、愛刀を持ち帰り打越寺に弔いました。寺の移築に際し、信綱寺の裏山に開基としての墓所を設け信綱夫妻、昌輝の墓石が建立されました。



⑨たちよば(塔頭場)

昔、禅宗の寺で高僧が亡くなると師の僧を慕う弟子が師の墓のそばに庵(小屋)を建てて住み墓を守りました。この庵が塔頭(たつちゅう)ですが、一般的に墓を言うようになりました。この墓の中央の祠に祀るのは武家の信仰が厚かった弓矢の神である正八幡大神(しょうはちまんだいじん)です。ここは北沢・樋口両家が守り祭りも行っています。「たちよば」は「塔頭場」が訛った言い方です。



⑩市神

商売の神様です。500年ほど昔、尾引城主横尾氏がここに城下町を作って市場を開きました。ここは今、「宿小路」、「宿」などといわれていますが、昔は宿場としても賑わいました。もっと昔の鎌倉・室町の頃から今の四日市辺りの川原で月の4日・14日・24日に開かれていた市がここに移されたのでした。その後、「市神様」もここに移されたと考えられています。



鳴岩

この岩のくぼみに頭を入れ、耳をあてて聞くと、ゴーツという音が聞こえます。地元では地獄でえんま様が大きな釜で湯を沸かす火の音などと伝わり、地獄の釜石とも呼ばれています。

